

## (西暦) 2022 年度 博士前期課程学位論文要旨

### 学位論文題名

回復期病棟で作業中心の実践をする作業療法士の関係性構築の戦略  
～SCAT を用いた質的研究～

学位の種類： 修士 (作業療法学)

東京都立大学大学院

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 作業療法科学域

学修番号 21896708

氏名：吉政 豪也

(指導教員名：谷村 厚子 教授)

### はじめに

作業療法では client (以下, CL) の作業従事を促す上で作業療法士 (occupational therapist; 以下, OT) と CL の関係性が重要となる。現在日本において OT が働く領域は、身体障害領域の回復期病棟が最も多くなっている。そのため、回復期病棟における OT と CL の関係性・治療的関わり方を明らかにすることは有用であると考えられる。

そこで、本研究の目的を日本の回復期病棟で作業従事を促す介入をしている OT が、CL の作業従事を促すために意図して構築している関係性と、関係性を構築するためにどのような関わり方をしているのかを質的研究を用いて明らかにすることとした。

### 方法

本研究は、インタビューにてデータ収集を行い、Steps for Coding and Theorization (以下, SCAT) を用いて分析を行う質的研究である。対象者は、回復期病棟の OT で、以下の A) と B) に加え (a)～(c) のいずれかに該当する者とした。A) 自分が臨床で作業療法理論を使用していると考える者、B) オンラインか対面によるインタビューができる者、(a) 周囲の OT が CL と良い関係性を築いていると考える者、(b) 関係性に関する学会・論文発表をしている者、(c) CL との関係性に関心を持っている者。インタビューは 2 回実施し、インタビュー結果の逐語録化と SCAT による分析を実施した。SCAT で得られたテーマ/構成概念を小項目とし、類似した小項目をまとめ抽象度を上げた中項目を作成し、さらにその中項目をまとめ抽象度を上げた大項目を作成した。

### 結果

対象者となった OT は 12 名 (男性 6 名, 女性 6 名) であった。CL の作業従事を促す関わりとして【協業する関わり】【作業の探索を促す関わり】【黒子の役割を演じる関わり】【CL の周辺から情報を収集する関わり】【CL を理解しようとする関わり】【CL を導く関わり】

という 6 つの大項目が抽出された。CL の作業従事を阻害してしまう関わりとして【CL を過剰に考慮する関わり】【非 CL 中心の関わり】【CL の要求レベルに達しない関わり】【物事を曖昧にし誤魔化す関わり】という 4 つの大項目が抽出された。

#### 考察

先行研究と比較すると【黒子の役割を演じる関わり】【CL の周辺から情報を収集する関わり】は本研究独自のものであった。OT の語りから【共に目標へ歩む関係性】【支援者—被支援者関係性】【被信頼—信頼関係性】【何でもさげ出せる関係性】【教育者—被教育者関係性】という 5 つの作業従事を促す関係性と、【被支配—支配関係性】【支配—被支配関係性】【焦り—苛立ち関係性】【曖昧—不信関係性】という 4 つの意図せず作業従事を阻害してしまう関係性が導き出された。以上より意図した関係性構築の重要性が示唆された。